令和４年度　事業報告

はじめに

横浜港振興協会は、「ミナト町ヨコハマの振興・発展に向けた諸事業を推進する」という役割を担うために、令和４年度も役職員一丸となって横浜港の港湾振興策を次のとおり実施しました。

市民を対象とした「横浜港見学会」「横浜港出前講座」等の各種事業を推進し、市民の方々に横浜港を理解して頂き、港がより身近で愛着のあるものとなるよう取り組みました。コロナ禍が続く中ではありましたが、感染拡大防止策を講じながら、５月に「横浜港カッターレース」、７月にはみなと祭関連行事である「優良海事関係者表彰式」、「小学生のための港内見学会」などの事業を実施しました。

客船の寄港については、コロナ感染の影響により大幅に減少したものの、引き続き客船誘致を進めるとともに、配船調整業務や、岸壁の運営業務を行いました。

横浜港の施設の管理運営業務としては、大さん橋国際客船ターミナル、八景島マリーナ・駐車場の安全・安心な施設運営に取り組みました。

今後も、当協会の役割を果たすため、より効率的で効果的な業務執行に努めてまいります。

１　会勢（令和５年３月 31 日現在）

(1) 会員総数　　512 社　824 口

令和４年度増減数

３社減　８口減（入会６社６口、退会９社 11 口、口数変更２社３口減）

(2) 役員

会長	１人	
副会長	４人	
専務理事	１人	
常務理事	１人	
理事	48 人	
監事	２人	（以上 計 57 人）

(3) 職員

事務局長	１人	
本部	９人	
大さん橋客船ターミナル事務所	10 人	
八景島事務所	３人	（以上 計 23 人）

２　会議等の開催

(1) 理事会・総会の開催

ア　第 201 回理事会　　令和４年５月 19 日

第 71 回通常総会提出議案、新規入会会員について承認されました。

イ　第 71 回通常総会　　令和４年５月 19 日

令和３年度事業報告・決算、令和４年度事業計画・予算、役員の補充選任について承認されました。

ウ　第 202 回理事会　　令和４年５月 19 日

副会長の補充選任について承認されました。

エ　第 203 回理事会　　令和５年３月 29 日

令和５年度事業計画、予算、引当資産の一部取崩しについて承認されました。

(2) 横浜港振興協会拡大交流会

（新型コロナウイルスの影響により中止）

(3) 令和４年度新入社員等研修会

会員店社の新入社員等を対象に、横浜港に関する２つの講義「横浜港の概要（講師：横浜市港湾局職員)」、「横浜開港と交通の発達（講師：横浜開港資料館職員)」及び貸切バスでの大黒ふ頭等の見学、船による海上からの港内見学を行いました。

開催日　　令和４年６月３日

場所　　波止場会館等

出席者　　48人

(4) その他（横浜経済７団体共催事業）

令和４年叙勲・大臣表彰・神奈川文化賞・横浜文化賞受賞祝賀会

開催日　　令和４年 11 月 28 日

３　港湾関係道路網の整備促進活動の推進

横浜港と背後圏とのアクセスを強化し、物流円滑化を図るため、横浜市幹線道路網建設促進協議会の構成団体の一員として、横浜環状道路の整備促進を働きかけました。

４　船舶・貨物誘致活動の推進

(1) 横浜港客船誘致事業

客船誘致に必要な情報を国内のみならず国外からも収集及び受入環境の強化を進めました。横浜港を取り巻く様々な課題が関係者間での共通認識となり、定期的に横浜港客船連絡会議を行い、その事務局を当協会が担いました。

(2) 客船受入事業

「飛鳥Ⅱ」「にっぽん丸」「ぱしふぃっくびいなす」の３隻の寄港があり、令和４年１月～12 月の客船寄港実績は計 82 回でした。

令和４年 12 月 11 日に、令和５年１月をもって運航終了となる「ぱしふぃっくびいなす」の歓送行事を開催しました。

(3) 横浜港初入港船歓迎サービス業務

横浜港の振興宣伝策のひとつとして、横浜港に初入港する船舶に横浜港シンボルマーク入り楯などの贈呈や初入港歓迎セレモニーを実施しました。

楯の贈呈数 46 件、押絵の贈呈数 19 件

初入港歓迎セレモニーの実施

コンテナ船「のがみ」　令和４年４月 27 日　南本牧ふ頭

５　地域連携事業

前年に続き、地域連携事業を推進するため、協会内に専門担当を設け、活動を行いました。

(1) 持続可能な横浜港の構築に向け、お互いが抱える諸課題の解決に共同で取り組み、ミナト町ヨコハマの更なる発展に寄与するとともに、「港湾の実業」を通して次世代人材を育成するため、令和４年１月に、神奈川大学と締結した包括連携協定に基づき、具体的な取組みを行いました。

八景島アクティブラーニング研修・国際日本学部島川ゼミ生（令和４年７月 26 日）

藤木会長による基調講演「港の実業を語る」（令和４年 10 月７日）

藤木会長と神奈川大学生の座談会・国際日本学部平山ゼミ生（令和４年 11 月 10 日）

藤木会長と神奈川大学生の座談会・経済学部三島ゼミ生（令和５年３月９日）

(2) 臨海部の賑わい創出と回遊性の促進を目的として、ウォーキング＆ジョギングマップ「BAYWALK YOKOHAMA」を市内観光案内所、周辺ホテルや商業施設に配布しました。

(3) 「BAYWALK YOKOHAMA」コースと八景島周辺を巡る「ウエルネス・ウォーキング」イベントを、年間を通して６回実施しました。

横浜港ウエルネスウォーキング（10 月 10 日、12 月 18 日、２月 12 日）

八景島ウエルネスウォーキング（11 月 27 日、１月 22 日、３月 26 日）

(4) 横浜発着のクルーズ客の多くは、東京等で観光・宿泊を行うという課題があります。これを解決する試みとして、実際にクルーズ客に横浜のホテルに足を運んでもらい、客室見学やレストランを利用していただき、横浜観光やホテルの前泊・後泊の利用に繋げる「サロン・ド・ヨコハマ」を開催しました。

横浜ロイヤルパークホテル（９月 15 日）

ベイホテル東急（９月 28 日、10 月 31 日）

インターコンチネンタル横浜 PIER８（11 月 22 日）

カハラホテル横浜（11 月 24 日）

ニューグランドホテル横浜（11 月 28 日）

ハイアットリージェンシー横浜（３月２日）

(5) 近隣商店街や鉄道事業者に対して、クルーズ船の情報提供や連携活動を行いました。

(6) 横浜ベイブリッジ歩行車道スカイウォークの運営

スカイウォークを利用者が安全かつ快適に使用できるよう適切な運営及び施設を活用した広報活動を行いました。

６　市民と港を結ぶ事業の推進

(1) 共催事業

ア　横浜港見学会の実施

市民に広く横浜港を理解し、親しんでもらうため、港湾局、横浜港埠頭株式会社、横浜川崎国際港湾株式会社と連携し、横浜港内の周遊やコンテナターミナルなどの港湾施設の見学会を実施しました。

コース及び参加人数等

（ア）　マリーンルージュ乗船コース　　120 回　3,669 人

（イ）　港湾施設見学コース　　12 回　233 人

（ウ）　マリーンルージュ乗船・港湾施設見学コース　　46 回　728 人

イ　横浜港出前講座の開催

横浜港や港に関係することなどをテーマに､講師を派遣し講座を開設することにより、市民の横浜港に対する理解や関心を深めるとともに、港との結びつきを強化するため、出前講座を行いました。

実施回数　９回

受講者数　228人

ウ　横浜港理解促進事業　提案型事業の実施

横浜で避難生活を送っているウクライナの方を招待し､横浜港への親しみを持っていただくため､「ウクライナ交流クルーズ」を実施しました。また、横浜市民等の方も一般募集し、ウクライナ支援に一層の関心を持っていただけるよう、船上交流イベントを実施しました。

（ア）　第１回

開催日　令和４年 11 月 26 日

参加者　市内ウクライナ避難民及び避難民関係者等　46 人

（イ）　第２回

開催日　令和４年 12 月 17 日

参加者　市内ウクライナ避難民及び市民等　51 人

エ　区民まつり等への出店

区民まつり等のイベントに出店し、横浜港オリジナルグッズの販売や港に関するゲーム等を実施することにより、市民と港を結び付ける活動を行いました。

（ア）　ほどがや区民まつり

令和４年 10 月 29 日　県立保土ケ谷公園

（イ）　中区民祭り　ハローよこはま 2022

令和４年 11 月 13 日　象の鼻パーク

オ　横浜港客船フォトコンテスト2022の開催

横浜港やクルーズ客船の魅力を多くの方に知っていただくため、港湾局と連携し横浜港に寄港する客船や横浜港の景色を被写体としたフォトコンテストを開催しました。

応募期間　令和５年１月６日～18日
テーマ　横浜港とクルーズ客船
応募総数　116作品
入賞数　８作品

(2) 実行委員会の事務局として実施した事業

ア　第39回横浜港カッターレース

主催　横浜港カッターレース実行委員会
開催日　令和４年５月22日
場所　山下公園前面海域及び公園内
参加チーム　63チーム（一般54チーム、女子９チーム）

イ　みなと祭港湾関連行事の開催

主催　みなと祭行事港湾実行委員会

（ア）　優良海事関係者表彰式

横浜港において永年精励勤務した海事関係者の方々の功績をたたえ、感謝の意を込めて横浜市長より表彰しました。

開催日　令和４年７月26日
場所　大さん橋国際客船ターミナル 大さん橋ホール
受賞者　港湾エンジニア　37人、船員３人

（イ）　小学生のための港内見学会

水上バス「シーバス」の乗船と港湾施設の見学を行う「小学生のための港内見学会」を２日間開催しました。

①開催日　令和４年７月28日
行程　港内見学～出田町ふ頭見学(輸入青果、冷蔵倉庫の見学)
参加者　48人
②開催日　令和４年７月29日
行程　港内見学～日産自動車本牧専用ふ頭見学（自動車専用船への車両搬出作業等の見学)
参加者　48人

ウ　横浜港国際船員スポーツ大会

ソフトボール、バスケット、卓球、ビリヤード等
（新型コロナウイルスの影響により中止）

７　横浜スパークリングトワイライト関連イベントの実施

港や海に対する認識を深め、併せて横浜港の観光の振興を図り、地域経済の活性化に資することを目的とした「横浜スパークリングトワイライト 2022」は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。これに代わり、「横浜スパークリングナイト」として、５分間の花火打上げを実行委員会の構成団体の一員として実施しました。

開催日　令和４年６月から令和５年１月まで（17 回）

内容　　新港ふ頭岸壁、山下ふ頭岸壁、大さん橋ミニフロートから５分間花火打上げ
打上げ玉数 150 発（１月のみ３分間打上げ）

８　横浜港の広報宣伝活動の推進

(1) 各種刊行物の発行

ア　広報誌「よこはま港」の発行

第 149 号（令和４年　４月１日発行）	1,300 部
第 150 号（令和４年　７月１日発行）	1,300 部
第 151 号（令和４年 10 月１日発行）	1,300 部
第 152 号（令和５年　１月１日発行）	1,500 部

イ　市民向けカレンダー等の制作、販売

横浜港カレンダー2023	1,800 部
横浜港客船カレンダー付ポスター2023	4,000 部

(2) ポートガイド事業

海外からの横浜港訪問客に対する通訳や港内案内、刊行物等の翻訳、イベント司会等のサービス提供を行いました。また、市民向けの横浜港見学会や県外中学生による横浜港見学「海の学習」のガイドも行いました。

出動人数　　10 人（英語６人、中国語２人、韓国語２人）

出動件数　　80 回

９　横浜港振興協会友の会（波止場クラブ）の運営

(1) 友の会会員の募集

広く市民の方々に横浜港を知ってもらうため、友の会会員を引き続き募集しました。

会員総数　78 人　（令和５年３月 31 日現在）

令和４年度増減数　１人増（入会７人、退会６人）

(2) 友の会会員向けイベントの実施

横浜港について理解を深めていただくため、会員限定の「シーバス ZERO“横浜港夜景クルーズ”」を実施しました。

開催日　　令和４年 10 月 29 日

見学場所　京浜運河、田辺運河、南渡田運河、大黒ふ頭、扇島等（横浜駅東口発着）

参加人数　39 人

(3) 神奈川大学生涯学習・エクステンション講座の招待

神奈川大学との連携事業の取組みとして、当協会会長による「“港の実業”を語る」をテーマとした講演（神奈川大学生涯学習・エクステンション講座）が実施され、当協会個人会員を受講者として招待しました。

開催日　　令和４年 10 月７日

受講者数　個人会員 19 人

10　横浜港オリジナル記念品等の制作、販売

協会オリジナルグッズの製作、刊行物の販売をしました。新商品として、バギーハットの製作販売をし、販売数の多いエコバック、ミニタオル等の追加制作を行いました。

11　協賛・後援事業等

横浜港の振興・発展に寄与する行事について、協賛または後援等を行いました。

(1)　第 70 回ザよこはまパレード（国際仮装行列）（国際仮装行列実行委員会）
(2)　ワールドトライアスロンシリーズ・ワールドパラトライアスロンシリーズ（2022/横浜）大会（世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会）
(3)　ベルギーウィークエンド 2022 横浜（ベルギーウィークエンド実行委員会）
(4)　第 39 回横浜港カッターレース（横浜港カッターレース実行委員会）
(5)　ハマフェス Y163（横浜セントラルタウンフェスティバル実行委員会）
(6)　GREENROOM FESTIVAL’22（グリーンルームフェスティバル実行委員会）
(7)　横浜開港 163 周年みなと祭港湾関連行事（みなと祭行事港湾実行委員会）
(8)　「アロハヨコハマ 2022」（アロハヨコハマ実行委員会）
(9)　第 39 回よこはまファミリー写生大会（横浜市ＰＴＡ連絡協議会）
(10) 横浜スパークリングナイト 2022（横浜スパークリングトワイライト実行委員会）
(11) 令和４年度「海の月間」行事（「海の月間」横浜地区実行委員会）
(12) 令和４年度海洋都市横浜うみ協議会（海洋都市横浜うみ協議会）
(13) 第 35 回横浜港ボート天国（横浜港ボート天国推進連絡協議会）
(14) 第 13 回みなとみらい大盆踊り（みなとみらい大盆踊り実行委員会）
(15) Local Green Festival ’22（ローカルグリーンフェスティバル実行委員会）
(16) 第 60 回全国大会（日本港湾経済学会）
(17) ワールドフェスタ・ヨコハマ 2022（ワールドフェスタ・ヨコハマ実行委員会）
(18) 記念展「ベストセレクション 世界の客船ポスター」（公益財団法人帆船日本丸記念財団）
(19) 「BAYWALKMARKET」（BAYWALKMARKET2022 実行委員会）
(20) 「YOKOHAMA SUP SANTA CRUISE」（横浜ＳＵＰ倶楽部）
(21) 観光庁地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業内における「みなとみらい＆山下公園の朝ジョギング」
(22) 第 33 回子ども会書道展（横浜市子ども会連絡協議会）
(23) ジャパンインターナショナルボートショー2023（一般社団法人日本マリン事業協会）

12　横浜港の施設の管理運営等

(1) 大さん橋国際客船ターミナル指定管理業務

指定管理者として大さん橋ターミナルの管理運営をしました。来場者は 2,671,405 人となりました。また、以下の実績のとおり、客船の受入れを始めとしたインナーハーバーの更なる活力と賑わいの創出を実現し、安心安全な施設づくりのために各訓練、講習、研修会なども実施しました。

ア　客船の入出港に関する主な管理運営業務

入港隻数（暦年）82 回

イ　ターミナルの来場者数

2,671,405 人

ウ　ターミナルの駐車場利用台数

148,491 台

エ　大さん橋ホールの営業稼働日数

200 日間

オ　撮影の利用件数

静止画 2,198 件、動画 112 件

カ　主な訓練、講習、研修会

全体防災訓練（年２回）
館内消防設備点検（年６回）
防犯関連講習（年２回）※SOLAS 勉強会、護身術講習
衛生管理研修（年２回）
コンプライアンス研修
接客マナー研修
ハラスメント講習
ウェブマーケティング講習
個人情報取り扱い研修

キ　主な自主事業

大さん橋くじらのピアノ（通年）
ショップ通路の装飾演出（通年）
和風庭園の設置（通年）
大さん橋見学ツアー（毎月）
桜まつり（４月１日～４月 10 日）
芝生メッセージ（７月 30 日～８月 31 日）
ライブペイント「START-UP」（９月 30 日）
ラポール横浜アートワークショップ「くじらの巨大壁画」展示
（９月 30 日～10 月 31 日）
ベイウォークマルシェ（10 月８日～10 月 10 日）
イルミネーション「光のローズガーデン」（11 月１日～３月 12 日）
中区防火ポスター展示会（11 月９日～11 月 20 日）
パネル展「港で働く男たち」（12 月３日～３月 31 日）
ぱしふぃっくびいなす歓送行事（12 月 13 日）
絵画展「横浜港の船と大さん橋の歴史」（２月４日～２月 19 日）

(2) 大さん橋岸壁の安全管理業務

大さん橋ふ頭は外航客船が入出港を行う際に SOLAS 条約（海上人命安全条約）の対象となる岸壁であるため、埠頭保安管理者（横浜市港湾局）が定める規定に基づき、24 時間 365 日、岸壁に出入りする車両と人の管理を実施しました。

(3) 配船業務及び客船等岸壁受入業務

横浜市から委託を受け、客船等の配船調整業務や大さん橋ふ頭など客船等が着く岸壁の運営業務を実施しました。

(4) 八景島マリーナ等の運営

ア　八景島マリーナの運営事業

八景島マリーナの運営業務を横浜市から受託し、安全かつ良好な状態で管理しました。また、大学ヨット部関連事業のほか、市民を対象にしたレンタルヨット及びヨットスクール事業を実施しました。

（ア）　通年事業としてマリーナの管理運営を実施
毎日オープン（年末年始を除く）
業務内容：クラブハウスの運営、マリーナ海上業務、施設の点検・補修業務、各種連絡調整業務等

（イ）　大学ヨット部活動

大学数	出艇日数	出艇数
13大学	151日	4,401艇

（ウ）　レンタルヨット

区分	会員人数	利用回数
シーズンレンタル会員	９人	107回
レンタル会員	98人	15回

（エ）　ヨットスクール

区分	開催日数	受講者数
技術習得コース	22日	延べ74人

イ　指定管理業務の一部の実施

八景島指定管理業務の一部を受託し、指定管理者とともにイベントを開催補助及び島内の管理を実施しました。

（ア）　工事車両、イベント広場使用車両等の先導業務

（イ）　ゆうなみ橋オイルフェンス（ブイ）監視業務

（ウ）　八景島島内巡回監視業務

※　八景島来島者数：2,807,400 人

ウ　八景島駐車場の運営事業

周辺の交通対策を行う中、八景島駐車場の管理運営を実施しました。

令和４年度は、新型コロナウイルスの影響は限定的なものとなり、様々な制限解除とともに八景島来島者が増え、利用実績が増加しました。各駐車場は平日・土日祝日を通して利用数が伸び、新型コロナウイルス拡大前よりも利用が増加しました。

区分	利用実績		前年対比
	令和３年度	令和４年度	
Ｂ駐車場	30,950台	34,776台	＋3,826台
Ｃ駐車場	61,388台	67,698台	＋6,310台
Ｄ駐車場	80台	889台	＋809台
合計	92,418台	103,363台	＋10,945台

13　令和４年度会員変更一覧

(1) 新規入会会員

（店社名）	（口数）
株式会社NKB Y’s	１口
クルーズトラベラーカンパニー株式会社	１口
株式会社ブレイズ	１口
APMターミナルズジャパン株式会社	１口
一般社団法人スピリット・オブ・セイラーズ	１口
東洋紙業株式会社	１口

(2) 口数変更会員

（店社名）	（口数）		（新口数）
日本郵便株式会社　南関東支社	３口	→	１口
新栄運輸株式会社	２口	→	１口

(3) 退会会員

（店社名）	（口数）
国際ケーブル・シップ株式会社	２口
ルーデンス株式会社	１口
朝日オフセット印刷株式会社	２口
岡部産業株式会社	１口
株式会社ウィンダム	１口
株式会社イズミ産業	１口
株式会社大泉工務店	１口
クルーズライン協同組合	１口
吾妻印刷株式会社	１口